道徳学習指導案

指導者　植木　雅子

1　日　　時　　平成 24 年 11 月 1 日（木）

2　学　　年　　第４学年１組　25 名　　［４年１組教室］

3　主　題　名　　家族の助け合い［４－（２）家族愛］

4　資　料　名　　「お母さんのせいきゅう書」（出典「ゆたかなこころで」東京書籍）

5　主題設定の理由

○　児童の人格形成の基盤は家庭にあるといってよい。家庭で身につける道徳性が，様々な集団とのかかわりの基盤にもなる。そのような，家族一人一人についての理解を深めれば，父母や祖父母を敬愛する心が一層強くなる。また，家族の中での自分の立場や役割を知ることから，その一員として積極的に役に立とうとする精神が芽生え，家族のために役に立つ喜びが実感できるようになる。

　この段階においては，父母や祖父母への敬愛の念を深めるとともに，家庭生活により積極的にかかわろうとする態度を育てることが大切である。そのためには，家族の一員としての自分の役割を明確にし，その役割を果たしていくことが，家庭を和やかにし，協力し合って楽しい家庭生活を築こうとする姿勢を持つことにつながる。

○　本学級の児童は，学級の係活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる。しかし，家庭においても自分の仕事を決めて行っている児童は少ない。そこで，週末に家での仕事を宿題に出し，どんな仕事をしたかを報告し合ってみると，食事の手伝いや新聞取り，ふろ洗い，食器洗いなどを進んで行ったという児童が多かった。また，夏休みに，家族の一員としての役割を果たすために，一つ自分の仕事を決めて継続して仕事を行うことを目標に取り組んだ。しかし，夏休みに継続して仕事を行うことができた児童は一部で，毎日続けて仕事を行い，自分の役割を果たせた児童は少なかった。その理由として，「忘れていた」「別の用事があってできなかった」というものが多かった。これらのことから，学校においては，自分の役割を果たすという責任感は持てるものの，家庭においては，自己中心的で，家族のために役立とうという気持ちは薄いように感じられる。その要因としては，児童が家族に対する甘えから，それを素直に表現できないということもあるが，家族に対して尊敬や感謝の念を改めて見つめ直す機会が少ないためであると考える。

○　本資料は，前半と後半の 2 部構成になっている。前半は主人公「たかし」の「お母さんへの請求書」を母が読む場面で，後半は隆が母に出した請求書通り五百円を手に入れるが，母からの請求書を見て反省し，お金を返す場面である。主人公は，母の請求書を見て自分を振り返り，心からわびるという内容である。

　指導に当たっては，主人公「たかし」の気持ちを追いながら，ねらいにせまっていく。基本発問では，思惑通り，母親から五百円を受け取った時のたかしの気持ちを話し合う。自分の仕事に対する対価をお金に見出しているたかしの気持ちは，本学級の児童にとって共感できるものであ

る。家庭の仕事について深く考えもせず，自分が立てた作戦が成功したことを喜んでいる主人公の心情をしっかり出させたい。中心発問では，母の請求書をみたときの主人公の心情を考えさせる。母も自分と同じように書いているだろうと思っていたけれど，実際の母の請求書には０円と書いてあったのはなぜなのか，どんな思いで母はその請求書を書いたのかに気付かせたい。その際，自分の考えを明確にするためにワークシートに書かせる。自分の行動に対する反省だけでなく，母親の愛情の大きさを感じさせたい。

終末では，保護者に事前に書いてもらって手紙を読ませる。手紙を読むことを通して，普段言葉ではいえない感謝の気持ちや願いに触れ，家族のためにできることをやっていこうとする意欲を持たせたい。

６　準備物

場面絵　お母さんとたかしの請求書（掲示用）ワークシート　保護者からの手紙　ＢＧＭ

７　ねらい

○　母親の０円の請求書を見たときのたかしの心情を話し合うことを通して，家族の自分への深い愛情に気付き，自分も家族の一員として役割を果たそうとする道徳的心情を育てる。

８　本時のポイント

○　児童が主人公のたかしに自分を重ねて心情をとらえ，自分の思いを明確にして話し合うことができるようにするために，ワークシートを活用して書く活動を取り入れる。

○　母親の愛情の大きさを感じ取らせるために，展開後段において，ゲストティーチャーに０円の請求書を書いた母親の気持ちを語ってもらう。

８　指導過程

段階	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	１　家でしている自分の仕事を発表する。	○家で，どんな仕事をしていますか。 ・毎朝，新聞を取りに行く。 ・食器洗いをする。 ・ふろ洗いをする。	○　家庭の仕事ををしているときの様子を想起することで，資料への興味と関心を高める。
展開前段	２　資料「お母さんのせいきゅう書」を読んで話し合う。	○たかしはどんなことを考えながら，お母さんに請求書を書いたのでしょう。 ・これで，お小遣いがもらえるかもしれない。 ・せっかくお手伝いをしたのだから，もらわないのは損だ。 ○五百円を受け取ったたかしは，どう思ったでしょう。 ・お金をもらうことができてうれしい。	○　たかしの書いた「請求書」を掲示して，請求書の意味やたかしの思いを確認する。 ○　自分のしていることの意味を考えずに，ただ自分の考え通り

		・ぼくだって家の仕事をして働いているんだから，お金をもらうのは当然だ。 ・また請求書を作ったら，お金をもらえるかもしれない。 ◎たかしは，お母さんの請求書を見て，涙があふれてきたとき，どんな気持ちがわきあがってきたと思いますか。 ・お母さんは当たり前だと思ってやってくれていたのにお金を欲しがってはずかしい。 ・お母さんは，ぼくよりもっとたくさん仕事をしているのにお金をほしいなんて思っていない。 ・お母さんは，まちがったことをしたぼくをしかったり，お金を請求したりしないで，何が大切なのかをぼくに気づかせたかったんだ。 ・家族のためにすることでお金をほしがるのはおかしいということがよくわかった。 ・家族のために何かするのは当たり前のことだ。お金なんかもらわなくても家族が喜んでくれるだけでうれしいんだ。	に事が運んだことを喜ぶたかしの気持ちをつかめるようにする。 ○　中心場面でのたかしの反省する気持ちにより深く共感できるように，たかしの身勝手で欲深い心情に気づかせる。 ○　自分の考えを明確にさせるためワークシートに書かせる。
展開後段	3　教師の話を聞いて，これまでの自分の生活を振り返る。	○先生の経験したことを話すので聞きましょう。 ○今までに家族のためにやってよかったなと思うことはどんなことですか。 ・お母さんの調子が悪いときにご飯を作った。 ・洗濯物をたたんだ。 ・風呂の掃除をした。 ・喜んでもらったり，「ありがとう」と言ってもらったりすると，やってよかったなと思う。	○　教師の話を聞いて，たかしのお母さんがどんな気持ちで０円の請求書を書いたのかをつかむ。 ○　行動だけでなく，そのときの家族の反応や気持ちも振り返らせる。
終末	4　保護者からの手紙を読み，家族の思いに浸る。	○お家の人からの手紙を読みましょう。	○　家族の感謝の気持ちに触れることで，家族の一員として協力することの喜びを感じさせる。